優秀賞

ロロとレレのほしのはなを読んで

小林　伸太郎

柳田先生、こんにちは。今年は経験したことのない暑さが続いていますがお体を壊されていらっしゃらないでしょうか。私たちは家族四人元気で仲良く暮らしています。

昨年の絵本大賞で私の手紙にお返事を下さりありがとうございました。お蔭で子ども達への理解がより深まったように感じました。また、いただきました「生きる力、絵本の力」の本に書いてあった絵本を殆ど読ませていただきました。「ハナミズキのみち」は、三歳の息子と読みましたが、息子は地震に興味を持ったようで、仙台出身の保育園の先生と沢山お話ししたそうです。

私が一番気に入ったのは、「ロロとレレのほしのはな」です。ロロとレレは自分たちの出来る範囲で動物たちを助けて行きます。とげが刺さった猫のとげは抜いてあげましたが、好きな相手に告白できないコウモリに対しては代わりに告白するのではなく、困難を乗り越えられるように温かく励ましています。ここから、私たちは無理なく支え合っていくことの重要性が読み取れます。形あるもので援助することは限界がありますが、心で支え合って、励まし合っていくことには限りがありません。現代は心で支え合うことよりも、人を馬鹿にしたり足をひっぱったりするように心を傷付け合っている傾向が多く見られます。私は全ての人が心で支え合うようになれば現代の多くの問題

は解決されると考えています。その為に、まずは自分が支援できることを無理なくしっかりやろうと心に決めています。家事・育児・仕事の傍ら図書館で読み語りのボランティアをしているのもこのためです。ロロとレレの世界のように少しずつ支え合いの心が広まっていくことを願っています。

この「ロロとレレのほしのはな」は息子が小学生になったら一緒に読もうと思っていましたが、息子は私の絵本の山から見つけてきて、読んでほしいとせがみました。少し困りながら、

「まあちゃんにはまだつまらないかも知れないよ。」

と、苦し紛れの言い訳をしました。しかし、

「つまらなくても良いから読んで。」

と諦めないので何か気づけばと思って読みました。読み終わると、

「お父さんにはつまらなかったの？」

と驚くような質問をしてきました。

「まあちゃんは面白かったの？」

と返すと、

「うん、もう一回読んで。」

とお願いされました。結局、その日は同じ本を五回も読むことになりました。そして数日間、この本を読んでほしいと何度もリクエストしてきました。ある時、何でそんなに面白いのかと思って、

「この本のどこが面白いの？」

と聞くと、暫く困ったように考えていましたが、

「お花が咲くところ。」

と答えました。しかし、何となく無理して作った回答のような気がして私には腑に落ちませんでし

た。そこで、一度図書館の読み語りで読んでみて子どもたちに聞いてみようと考えました。

しかし、この本は一ページにいくつも小さい絵があり、それを説明する文がない部分もあり、読み語りには不適切な本です。そこで、お話の世界を壊さないように最低限の説明を加えたり、子ども達が絵を十分読み取れるだけの時間をかけて絵を見せたりして読み語りをしました。今までで一番緊張した読み語りでした。読み終わって大きな拍手の後、

「このお話のどこが面白かったかな?」

と用意していた質問を投げかけようと会場を見たとたん、慌てて質問を飲みこみました。何故なら、会場全体が心地よい余韻に浸っていると感じたからです。

「大人も子供も何か感じているものがある。」と分かりそれだけで十分に満足しました。息子もこの本から何か感じとっていたのでしょうが、私の質問に自らの言葉で説明できなかったのだと気づきました。

これからも、人の為にできることをやり、私も気づきや励ましをもらって頑張っていきたいと思います。柳田先生も無理なく御活躍されることを期待しております。

追伸　先日、四歳になった息子に久しぶりに「ハナミズキのみち」を読んだら、泣いていました。